

目次	1	We Can Make It Together! [Evonne Yiu]
	2	研究室の窓から [石田晋也] / 大学院講義レポート [江口徹]
	3	留学生インタビュー [Marc Blancoさん]
	4	GraSPP大運動会 [蒔澤太一] / トピックス・教職員、学生、修了生の交流会 [前田陽]

We Can Make It Together!

Evonne Yiu, 1st Year at MPP/IP Course (from Singapore)



This is in fact my third time to Japan!

I first came to Japan on the Okinawa Prefecture Scholarship for a year of exchange at the University of the Ryukyus, during my undergraduate years with the National University of Singapore (NUS). After Okinawa, I returned to Singapore to complete my Honours degree in Japanese studies at NUS. However, I felt that my brief stay was not enough to gain an in-depth understanding of Japan, and thus decided to come to Japan again on the Japan Exchange and Teaching (JET) Program, where I had the privilege to work in the local governments of the Miyazaki City and Miyazaki Prefecture Hall for three years. My years in Miyazaki serving the Japanese community inspired me to also serve my own country, and so I returned to Singapore to join the Public Service, where I worked as Assistant Director in International Relations with the Ministry of Transport Singapore.

However in the course of my work as a public servant, I realized that I needed more grounding in the disciplines of law, politics and economics to help me formulate sounder policies and evaluate challenges faced. Taking leave from a career which has barely started was indeed a tough decision, but the sense of duty to be a responsible public servant who can make useful policies and implement them effectively to improve the lives of the people dissipated these reservations. Thus I decided to take two years leave to enhance my foundations in public policy and administration, develop new skills, as well as gain fresh perspectives in governance.

And it was of little hesitation that I chose to come back to Japan for the third time to further my studies as this country offers so much to learn; not only for the academic knowledge, but also the cultural and philosophical aspects of the Japanese way of life. I chose to study public policy not only to enhance the knowledge and skills needed for a career in public service, but also for the realization that the multidisciplinary understanding in public policy is essential to the individual in becoming a more informed and responsible member of society who could make a difference to the global community.

At the Graduate School of Public Policy (GraSPP), I am truly

excited to be studying under the best teachers who are thought leaders in their respective profession and in the academia. As the pioneer batch of students under the Master of Public Policy/International Program (MPP/IP), the first English program of GraSPP's five professional programs, it is truly a stimulating and thrilling experience sharing ideas on governance and building friendships with a good mix of foreign and Japanese students of similar professional backgrounds and whom shared my aspirations to create a better world. GraSPP also offers joint programs (mostly in Japanese) with several other graduate schools with the aim of grooming all rounded students in various academic disciplines. One of such program is the University of Tokyo Ocean Alliance Program, in which I am also enrolled to along with my MPP/IP program. I took up this challenge to improve my rusty Japanese, as well as to deepen my knowledge and hopefully build expertise in the area of science, technology and environment, as I have always been interested in issues of the environment and sustainable development. I am truly happy that Todai strongly encourages and gives the opportunity to students to develop our knowledge in different academic disciplines.

In March 2011, I was in Tokyo when Japan experienced the tragic Great Eastern Earthquake and Tsunami, which was subsequently followed by the nuclear crisis in Fukushima. An unprecedented sense of sorrow gloomed for months as the whole nation mourns, but the strong resilience and true compassion that the Japanese people have shown in this ordeal has also deeply impressed the world. And there is no better time to study in Japan than now. For this is the time where not only the Japanese people, but also foreign nationals in and outside of the country are coming together as one, and moving dynamically towards not only reconstruction and restoration, but re-creation of an even more impressive, exciting and resilient Japan. You are most welcome to join us on this journey and we can make it together!

Message:

If you come Japan, do also try to travel to the countryside to get a thorough understanding about Japan, for it is where you would discover her true beauty and virtues.

研

研究室の窓から

第2回

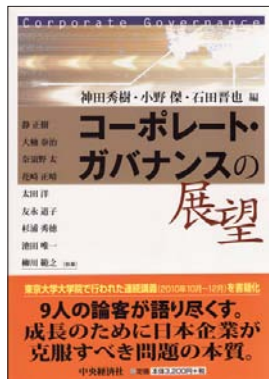
金融庁・証券取引等監視委員会 開示検査課長
石田晋也
〔本稿執筆時：公共政策大学院各員教授〕

私と小野傑客員教授が担当の「事例研究（資本市場と公共政策）」では、2010年冬学期はコーポレート・ガバナンスをテーマにしました。

このクラスは、毎年、資本市場に関わるテーマを取り上げて、行政や市場などの様々な方から話を伺ったり、学生の皆さんに研究成果を報告してもらったりして、問題の本質や解決策を勉強しています。

昨年度このテーマを取り上げたのは、株価が長く低迷する中で、内外の投資家から日本企業のガバナンスに対して大変厳しい問題意識が表明され、こうした声も受けて、最近各方面で活発に議論されてきたことがあります。

クラスでは、まさに議論の第一線に立っている9名の方に講演をお願いしました。実社会でこの分野に関心のある人なら是非話を聞きたいと思うような、豪華キャストです。講師の方は非常に熱心に説明してくださり、質問も活発で、大変良い勉強の機会になったと思います。



素晴らしい講師がそろったこともあり、色々な方からは是非本にまとめて出版してほしいという要望も頂いたので、多くの方にご協力いただいて、出版しました。『コーポレート・ガバナンスの展望』（神田秀樹、小野傑、石田晋也編、中央経済社、2011年）です。

資本市場の問題は、難しいこともありますが、これを知らずして現代経済は語れないでしょう。特に経済に関心がある人はよく勉強してください。なお、このクラスは今年度も冬学期に開講し、また別のタイムリーなテーマで議論する予定です。

大学院講義レポート

第10回

「交渉と合意」

【担当教員】 松浦正浩 特任准教授

江口徹
(法政策コース2年)



「交渉と合意」は、交渉学の基本的事項の理解、交渉シミュレーションの実践を通して、自分と交渉相手が共存できるような方法をお互い納得できる形で見つける力を養うことを目的とした授業です。交渉学の基本的事項では、複数の条件をパッケージで交渉する統合型交渉の必要性のほか、BATNA（不調時代替案）やZOPA（合意可能領域）など、交渉を冷静に分析する実践的手法を学びます。

授業の醍醐味である交渉シミュレーションでは、マンション開発を巡る事業者と近隣住民の交渉のほか、港湾整備やホームレス対策など多くのステークホルダーが関わる交渉も行います。受講生は事業者や地元住民になりきり、自分が持つ情報等を駆使して、自己の点数（効用）の最大化、全体の効用最大化を目指します。ただし、同じテーマでも班ごとに交渉結果は大きく異なります。交渉後には、松浦先生と受講生の間で異なる結果が生じた原因を分析し、実践と学習を繰り返しながら、それぞれの合意形成能力を高めていきます。

授業では、地元代表の同意を地域の総意とみなす従来の手法から脱却し、様々な関係者の利害関心を丁寧に把握することの必要性も学びます。行政現場を見ると、地元代表の同意を重視し、少数の事業反対者への対応を後回しにする状況が今も続いているように思います。一定の価値観に基づく決断と合意形成の両方が必要とされる中で、こういった場面でもより丁寧な合意形成過程が必要かを見極めながら、この授業で培った力を地方の現場で生かしたいと思っています。

留田学生

インタビュー

第2回

— 日本の作家の本をずいぶんたくさん読んでいますか。

高校生のときに、スペイン語訳の村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』を読んで、興味をもちました。当時、それ以外の村上春樹の作品はスペイン語訳されていなかったのが、英訳ですべて読破しました。村上春樹本人には『アフターダーク』のプロモーションでスペインに来たときに会いました。

日本の小説はほかにもかなり読んでいます。小川洋子の『妊娠カレンダー』も読みましたし、吉本ばなな、川端康成、太宰治、三島由紀夫も読みました。村上龍は『イン・ザ・ミソスープ』を読みましたが、グロテスクで……。

— 今はどんな授業を取っていますか。

『Transportation Policy』（日原勝也先生、吉田雄一郎先生、岡野まさ子先生）、『Central Banking』（高橋亘先生、白塚重典先生）などを取っています。チャレンジが大好きなので、これまで未経験だったことに挑戦しています。ただ、経済学の基礎がゼロだったので結構大変です。これからMPP/IPに入ってくる学生には、経済学の知識はあったほうがいいと伝えたいです。（MPP/IPは経済系の科目が多く、基礎がないと本当に大変だと思います。最近は、先生方も入試面接で経済学の基礎はあるか、経済学に抵抗はないかを志望者に確認するようにしています。[同席した留学生担当・魚住多佳子さん]）

経済の勉強をしているのは、就職を考えてです。スペイン語が使える仕事がしたいと思い、自信はありませんが日本の商社を狙っています。大使館も選択肢として考えています。親は私が日本で就職すると聞いて寂しがっていますが、私の夢の実現に向けて応援してくれています。私がこちらで日本人の奥さんをもらうのが、ちょっと心配みたいです。しばらくは日本で生活します。でも、おじいちゃんになったらスペインに帰りたいと思っていますけどね。



Marc Blancoさん（スペイン出身） MPP/IPコース1年

— Marcさんは日本語だけでなく、カタルーニャ語、英語に堪能です。今、日本では小学生から英語教育を導入することについて賛否両論があります。Marcさんは幼時から外国語を学ぶことについてどう思いますか。

子供のうちから英語漬けになったほうが自然に話せるようになるので、始めるのは早いほうがいいと思います。母語は忘れませんから。スペインでは小学校（6歳）から英語教育が義務づけられています。私自身は3歳から英語を勉強しました。中学生になってからは親戚がイギリス・マンチェスターにいたので毎年行っていました。

日本語は、2007年に千葉県の神田外語大学に1年間留学して学びました。今は『しゃべくり007』（編注 日本テレビ放映のバラエティ番組）を見て、日本語をブラッシュアップしています（笑）。見始めたときは「全然ウケないよ」と思っていたのですが、今は面白いと思っています。

— 日本に来てよかったことや面白かったこと、反対に困ったことがあれば教えてください。

日本で初めて飲み会に行ったとき、実は感激しました。「スペインとおんなじだ！」と。仲間とわいわい語りながら夜遅くまでお酒を飲むなんて！日本の「差しつ差されつ」の習慣は、神田外語大学在学中に日本人の友人から教えてもらいました。彼らも社会人になり、たまにおごってもらいます。

日本で困ったのは医療費が高いことです（スペインは保険に入っていれば医療費は無料）。喫煙者にたいしても日本は甘いと思います。日本のレストランは喫煙可のスペースが広すぎます。スペインは公共施設や飲食施設は全面禁煙です。

— 東北関東大震災のときは、ご両親はずいぶん心配なさったでしょう。

親から帰ってこいと何度も言われ、震災後1週間くらいは、のらりくらりとかわしていましたが、「お前を迎えに日本に行く」とまで言われたので、2週間ほどスペインに帰りました。でも、今度は両親が9月に日本に来ます。今年10月に結婚するところ、来年1月の新婚旅行は日本に来ます。

（インタビュー・文責 編集担当）

GraSPP 大運動会

公共管理コース1年 蕪澤太一

2011年6月10日(金)、学生主催の「GraSPP大運動会」が開催されました。

「新たな交流の場になれば」という思いから企画され、60名もの参加者が学年・コース混合の4チームに分かれて優勝を争いました。最初に行われたスポーツクイズでは、東大やGraSPP関連の問題の解答権をかけて、リレーやボール回しで順位を競いました。問題も東大クイズ研出身者が作成し、興味をそそるものでした。続くドッジボールも「男子利き手封印ルール」で白熱した試合展開となりました。最終種目の綱引きでは皆が童心に返って大いに盛り上がり、参加者の興奮は最高潮に達しました。各チーム一丸となって勝負に臨む様子が見られ、真剣な作戦会議や円陣を組んで気合いを入れるなどの風景が印象的でした。

結果は、私、蕪澤がキャプテンを務める青組が、綱引きで圧倒的なチームワークを見せ、ドッジボール終了時点での最下位から一転、大逆転優勝を収めました。

運動会后、第二食堂を貸し切った表彰式・懇親会では、優勝チームには表彰状と同窓会提供の特注記念品が授与され、45人を超える参加者は豪華な食事と小野先生より頂いたロールケーキを囲み親睦を深めました。

久々の運動でリフレッシュできたと同時に、かけがえのない絆も築くことができ、実り多い一日となりました。官庁訪問や就職活動で忙しい時期であったにもかかわらず参加して下さった皆様に感謝申し上げます。末筆ながら、今回の企画に金銭面その他で快く御協力くださった田邊院長をはじめ、多くの先生方、事務局の方々、同窓会の先輩方に心より御礼申し上げます。



TOPICS トピックス

教職員、学生、修了生の交流会

公共管理コース2年 前田 陽

2011年5月26日(木)、山上会館にて教職員、学生、修了生が約130名参加して、交流会が開催されました。増田教授から乾杯の音頭を頂き、2時間という短い時間ではありましたが、会場は笑顔で満ち溢れ、学生は先生や修了生との政策議論や歓談を楽しみました。

GraSPPの素晴らしさの一つは多種多様な背景をもった個性豊かな人材にある、と私は思います。今後、公共政策の舞台でプロフェッショナルとして活躍していくうえで、この大学院の学びを通じて得た人との繋がりは大きな財産です。この恵まれた環境を大切に、将来、日本を、そして世界を、GraSPPのネットワークで力を合わせて光輝かすことが出来たらなど、美味しい食事とお酒を参加者の方々と共に楽しみながら思いました。



編集
後記

今回、海外からの留学生からエッセイを通じて、そしてインタビューの席上でもらった日本へのエールは、ひととき心に留まりました。あえて日本に残るといった選択をした彼らをはじめとする留学生のために、今度はわたしたちが恩返しをする番です。(編集担当)

NEWSLETTER

第25号

[編集・発行] …… 東京大学公共政策大学院
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] …… 2011年7月29日

[デザイン] …… 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877

E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>